

公開シンポジウム

「地域共生社会における薬剤師像を 発信する」

2021年

11/3(祝、水)

13:00~17:10

参加無料

主催：公益社団法人 日本薬学会 日本学術会議 薬学委員会
後援：公益社団法人 日本薬剤師会、一般社団法人 日本病院
 薬剤師会、一般社団法人 日本医療薬学会、公益社団法人 薬
 剤師認定制度認証機構、一般社団法人 薬学教育評価機構
開催方法：Web開催（YouTube Live配信、参加登録者は、
 11月17日（水）まで視聴可能）



参加申込方法：11月1日（月）までに下記のURLまたはQRコードから参加登録
 をお願いします。前日までに【ミーティングID】【パスワード】をお送りいたします。
<https://forms.gle/vtmksEYVKSRGW7QV6>

開催趣旨：近年の社会情勢の激変と相まって、持続可能な医療を担う薬剤師や創薬の専門家の育
 成に対する社会の要請や薬学教育を取り巻く環境はダイナミックに変化しています。特に、薬学教育モデル・コアカリキュラムの見直しや、卒後研修・専門薬剤師制度について検討が行われるなど、薬剤師の資
 質向上と職能に関する議論が活発に行われています。本シンポジウムでは、医学・看護学の教育動向も
 踏まえながら、地域共生社会で求められる薬剤師について議論を深めます。

【プログラム】（敬称略）

前半司会：堤 康央（日本学術会議 連携会員、大阪大学大学院薬学研究科 教授）

- **開会挨拶** 望月 眞弓（日本学術会議 副会長、日本薬学会 理事、慶應義塾大学 名誉教授）
佐々木 茂貴（日本薬学会 会頭、長崎国際大学薬学部 教授）
- **趣旨説明** 入江 徹美（日本学術会議 連携会員、日本薬学会 理事、熊本大学 名誉教授）
- **提言「持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽」の発出とその後の対応**
安原 真人（日本学術会議 連携会員、帝京大学薬学部 特任教授）
- **卒前・卒後医学教育の動向**
北村 聖（地域医療振興協会 シニアアドバイザー）
- **多職種との連携・協働を発展できる看護職の教育**
小松 浩子（日本学術会議 第二部会員、日本赤十字九州国際看護大学 学長）
- **総合討論1** ■

後半司会：石井 伊都子（日本学術会議 連携会員、日本薬学会 副会長、千葉大学医学部附属病院 教授）

- **厚生労働省「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」で議論されたこと**
西島 正弘（薬学教育評価機構 理事長）
- **日本薬剤師会の政策提言について**
山本 信夫（日本薬剤師会 会長）
- **医療機関における薬剤師の卒後研修とキャリアパス**
山田 清文（日本病院薬剤師会 理事、名古屋大学医学部附属病院 教授）
- **薬剤師の専門性のあり方について**
矢野 育子（日本学術会議 連携会員、日本薬学会 理事、神戸大学医学部附属病院 教授）
- **総合討論2** ■
- **文部科学省挨拶**
- **厚生労働省挨拶**
- **閉会挨拶** 平井 みどり（日本学術会議 連携会員、日本薬学会 監事、兵庫県赤十字血液センター 所長）

【問合先】 入江 徹美

〒862-0973 熊本市中央区大江本町5-1 熊本大学大学院生命科学研究部

TEL/FAX 096-371-4552, E-mail: tirie@gpo.kumamoto-u.ac.jp

薬剤師の専門性のあり方について

矢野 育子

日本学術会議連携会員、日本薬学会理事
神戸大学医学部附属病院 薬剤部

提言
持続可能な医療を担う薬剤師の
職能と生涯研鑽



令和2年9月4日
日本学術会議
薬学委員会
薬剤師職能とキャリアパス分科会

3 提言の内容

- (1) 地域医療への能動的関与
- (2) 薬学的管理に必要な患者情報の確保
- (3) 卒前教育と卒後教育の調和

(4) 領域別認定・専門薬剤師制度の改革

現在、関連学会や職能団体により様々な領域別認定・専門薬剤師制度が設けられており、国民から理解されるよう名称の整理や認定基準の整合を図るとともに、制度の質保証の仕組みを検討する必要がある。

(5) 薬剤師レジデント制度の整備

委員長	安原 真人	
副委員長	入江 徹美	
幹事	矢野 育子	
	平井 みどり	堤 康央
	橋田 充	望月 眞弓

厚生労働科学研究費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）研究課題

令和2～4年度

「国民のニーズに応える薬剤師の専門性のあり方に関する調査研究」

研究代表者：矢野育子（神戸大学医学部附属病院）

研究分担者：入江徹美（熊本大学生命科学研究部）

専門薬剤師の定義

特定の専門領域の疾患と薬物療法についての十分な知識と技術ならびに経験を活かし、医療スタッフの協働・連携によるチーム医療において質の高い薬剤師業務を実践するとともに、その領域で指導的役割を果たし、研究活動も行うことができる能力を有することが認められた者をいう。

その下のステップとして、特定の領域について、より深く学び実践できるように計画された領域認定制度に基づき、所定の学習実績を認定され証明を受けた領域認定薬剤師

乾 賢一，厚生労働科学研究費補助金

「6年制薬剤師の輩出を踏まえた薬剤師の生涯学習プログラムに関する研究」

平成25年度総括・分担報告書，平成26年3月

参考表1 主な領域別認定・専門薬剤師

認定領域	領域別認定薬剤師等	専門薬剤師	高度専門(指導)薬剤師	認定組織
薬物療法		薬物療法専門薬剤師	薬物療法指導薬剤師	日本医療薬学会
がん	がん薬物療法認定薬剤師 外来がん治療認定薬剤師	がん専門薬剤師 がん薬物療法専門薬剤師	がん指導薬剤師	日本医療薬学会 日本病院薬剤師会 日本臨床腫瘍薬学会
感染症	感染制御認定薬剤師 HIV感染症薬物療法認定薬剤師 抗菌化学療法認定薬剤師 ICD(インフェクションコントロールドクター)* 抗酸菌症エキスパート*	感染制御専門薬剤師 HIV感染症専門薬剤師		日本病院薬剤師会 日本化学療法学会 ICD制度協議会 日本結核病学会
精神科	精神科薬物療法認定薬剤師	精神科専門薬剤師		日本病院薬剤師会
妊婦・授乳婦	妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師	妊婦・授乳婦専門薬剤師		日本病院薬剤師会
腎臓病	腎臓病薬物療法認定薬剤師	腎臓病薬物療法専門薬剤師		日本腎臓病薬物療法学会
緩和	緩和薬物療法認定薬剤師	緩和専門薬剤師	緩和指導薬剤師	日本緩和医療薬学会
小児	小児薬物療法認定薬剤師			日本薬剤師研修センター
高齢者	老年薬学認定薬剤師			日本老年薬学会
内分泌・代謝疾患	糖尿病療養指導士* 糖尿病薬物療法認定薬剤師★ 骨粗鬆症マネジャー*			日本糖尿病療養士認定機構 日本くすりと糖尿病学会 日本骨粗鬆症学会
救急・中毒	救急認定薬剤師 認定クリニカルトキシコロジスト*	医薬品情報専門薬剤師		日本臨床救急学会 日本中毒学会 日本医薬品情報学会
医薬品情報	認定薬剤師★ 医療情報技師*			医薬品ライフタイムマネジメント(DLM)センター 日本医療情報学会
医療薬学一般	認定薬剤師 認定薬剤師	医療薬学専門薬剤師 地域薬学ケア専門薬剤師	上級医療情報技師* 指導薬剤師	日本医療薬学会
臨床薬理・臨床試験	認定CRC*		認定Senior Clinical Research Professional (SCRPP)*	日本臨床薬理学会
漢方薬・生薬	漢方薬・生薬認定薬剤師			日本薬剤師研修センター
女性医学	日本プライマリ・ケア認定薬剤師★ 基盤認定指導者(認定指導薬剤師) 在宅療養支援認定薬剤師★	認定女性ヘルスケア専門薬剤師		日本女性医学学会 日本プライマリ・ケア連合学会
プライマリケア・在宅医療		禁煙認定専門指導者(専門薬剤師)		日本禁煙学会 日本在宅薬学会
核医学	核医学認定薬剤師			日本核医学会
免疫疾患	登録薬剤師			日本リウマチ財団
褥瘡	認定師* 在宅褥瘡予防・管理師*			日本褥瘡学会
生活習慣病	生活習慣病改善指導士*			日本肥満学会
栄養療法	栄養サポートチーム(INST)専門療養士*			日本静脈経腸栄養学会
健康食品・サプリメント	健康食品領域研修認定薬剤師★ NR・サプリメントアドバイザー*			神戸薬科大学 日本サプリメントアドバイザー認定機構
ドーピング	スポーツファーマシスト			日本アンチドーピング機構

*は認定資格として薬剤師が含まれるもの
★はCPC認証・特定領域認定制度

赤字はR2変更分
緑色はR3変更分

(学術会議提言2020.9に加筆)

がん領域の認定・専門薬剤師の要件比較

	日病薬 がん薬物療法認定薬剤師	日本医療薬学会 がん 専門 薬剤師/ 地域薬学ケア(がん) 専門 薬剤師	日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師/ 専門 薬剤師
薬剤師歴	3年以上	5年以上	認定3年以上；専門5年以上
資格等	日病薬病院薬学認定薬剤師(日本医療薬学会専門薬剤師でも良い)	薬剤師研修センター研修認定薬剤師、日病薬病院薬学認定薬剤師、JPALSのCL5以上	日本医療薬学会専門薬剤師、CPC認証の生涯研修制度の認定薬剤師が、JPALSのCL5以上
専門領域の活動歴	申請時に病院等に勤務し、がん薬物療法に3年以上かつ引き続いて1年以上従事	規定なし	規定なし
専門領域の研修	認定研修施設で実技研修を履修か、3年以上がん薬物療法に従事	認定研修施設で5年以上	専門のみ：がん診療病院連携研修(30単位を1年以内に修得)(職歴によっては免除)
講習会の履修	40時間、20単位以上	5年で50単位以上	60単位以上
症例	50症例以上(複数の癌種)	50症例(3領域以上の癌種) 地域薬学ケア：50症例+悪性腫瘍20症例	がん患者のサポート事例10例
認定試験	あり	あり	あり
学会発表・論文	-	学会発表が2回以上(うち、1回は本学会での筆頭)、 <u>あるいは</u> 学術論文が筆頭著者1編以上	-
認定者数	1026名(2019.10.1)	がん専門 662名(2021.4.4) 地域ケア 155名(2021.2.1暫定)	認定 935名(2020.4) 専門 179名(2021.9.18暫定)

日病薬がん薬物療法専門薬剤師制度(令和3年新設)：日病薬がん認定薬剤師+学会発表2回+論文1編

資格を有する薬剤師の名称について

2008年の学術会議の提言では、

研修認定 (試験) → 認定 (症例) → 領域別専門 (研究) → 領域別高度専門の4段階

↓
その後の課題：

- ・ 研修認定は試験がないという課題があり、病院・薬局薬剤師ともに試験が課せられる認定制度ができた
- ・ 領域別専門 = 領域別認定薬剤師であることがわかりにくい
- ・ 領域別高度専門 = 専門薬剤師と指導薬剤師の場合がある

厚労科研 班会議からの提案：薬剤師のキャリアパスとして、
ジェネラルな研修認定 (試験あり) → 領域別認定 → 専門 (→指導)
に名称を統一してはどうか？

資格を有する薬剤師の名称と認定基準の定義(案)

ステップ1：研修認定薬剤師

- ・ 免許取得後3～5年目の薬剤師全てが目指すべき資格
- ・ ステップ2、3に進むために必要なベースとなる資格

(ステップ2：領域別認定薬剤師)

- ・ 特定領域の専門的薬剤業務を提供する能力を備えた薬剤師としての証
- ・ 専門研修実績とともに、自身が薬学的管理を行った症例を提示することができる

ステップ3：専門薬剤師

- ・ 領域別認定薬剤師が行う専門的薬剤業務と同等以上の質の高い業務を行う
- ・ 専門領域に関する研究能力も兼ね備え、指導的役割を果たす
- ・ 継続して自身の症例等の業務実績を提示することができる
- ・ 第三者機関認定による認定を受け、領域ごとで集約していくことが望ましい

指導薬剤師について：

- ・ 専門薬剤師を養成する管理的立場として必要時におくことができる
- ・ 専門的薬剤業務の提供に携わる場合は、専門薬剤師の資格を併せて有すること

厚生労働科学研究費補助金「国民のニーズに応える薬剤師の専門性のあり方に関する調査研究」

R3年度 総括研究報告書 (研究代表者 矢野育子)

厚生労働科学研究成果データベース (文献番号202025027A)

厚生労働科学班会議が提案する 第三者機関認証の専門薬剤師の要件(案)

1. **実務経験：5年以上**
2. **研修認定薬剤師であること：**
日病薬病院薬学認定薬剤師か、JPALSのCL5以上、
CPC認証の生涯研修認定制度の認定薬剤師
3. **専門領域の研修：5年以上**
4. **過去5年間の症例報告30症例**
(領域によって異なってもよい)
5. **認定試験の合格：必要**
6. **学会発表2回・筆頭論文1編以上**

厚生労働科学研究費補助金「国民のニーズに応える薬剤師の専門性のあり方に関する調査研究」
R2年度 総括研究報告書 (研究代表者 矢野育子)
厚生労働科学研究成果データベース (文献番号202025027A)

新専門医制度の基本設計(2018年4月スタート)

サブスペシャリティ領域専門医 (2018年度までに認定された23領域)

内科 (15領域)										外科 (6領域)				放射 (2領域)								
消化器病	循環器	呼吸器	血液	内分泌代謝	糖尿病	腎臓病	肝臓病	アレルギー	感染症	老年病	神経内科	リウマチ	消化器内視鏡法	がん薬物療法	消化器外科	呼吸器外科	心臓血管外科	小児外科	乳がん科	内分泌科	放射線治療	放射線診断

基本領域専門医 (19領域)

内科 小児科 皮膚科 精神科 外科 整形外科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 泌尿器科 脳神経外科 放射線科 麻酔科 病理学 臨床検査 救急科 形成外科 リハビリテーション科 総合診療科

各領域学会が責任を持って研修プログラムを構築し、日本専門医機構がそのプログラムを検証・調整し標準化を図るとともに、プロフェッショナル・オートノミーの理念のもと、専門医の認定を行う

歯科専門医制度

- ・各制度設計、専門医や研修施設の認定は各学会が行い、専門医機構が制度規則・専門医・研修施設の認証を行う
(一般社団法人 日本歯科専門医機構 定款：平成30年2月26日)
- ・日本歯科専門医機構認定の専門医制度(広告可能)としては、口腔外科、歯周病、小児歯科、歯科麻酔、歯科放射線の5つ
- ・日本歯科医学会のうち、37学会(上記5学会を含む)が学会認定専門(認定)医制度を設けている
- ・広告可能な専門医数が少ない、地域偏在が課題とされている

歯科医師の専門性に関する協議・検証事業報告書(令和2年3月)より

看護師の専門制度

- ・専門看護師と認定看護師がある
- ・専門看護師制度は、日本看護協会と日本看護系大学協議会が連携して運営しており、看護系大学院修士課程修了が必要要件で、看護協会が分野の特定と認定審査を行っている
- ・認定看護師制度では、日本看護協会が分野特定と、教育機関の認定、認定審査を行っている
- ・2019年には認定看護師規定が改正され、特定行為研修を組み込んだ新教育の開始と認定看護分野の再編が行われた
- ・現在、専門看護分野として14分野が、認定看護分野として19分野が特定されている

R3年度分担研究報告書

「医師・歯科医師・看護師における専門制度に関する調査」

研究分担者 入江 徹美
研究協力者 近藤 悠希

各専門領域の制度設計の経緯や体制を概観すると、各医療専門職の独自性を反映した違いがあるが、制度設計における共通の留意点は、専門制度が国民にとってわかりやすい仕組みであること、既存専門制度を有する各所属学会と新たな認証組織との良好な信頼関係・役割分担の構築等である。

厚生労働科学研究成果データベース（文献番号202025027A）より

bps Board of Pharmacy Specialties®



Type and hit enter ...

MENU



Specialty Councils

Specialty Council Purpose

- To develop standards and eligibility requirements for board certification in the specialty area for approval by the BPS Board of Directors;
- To develop examinations and set the passing standard for initial and continuing certification of pharmacist specialists; and
- To approve and review professional development programs for recertification of pharmacist specialists.

Specialty Council Roster

- [Specialty Council on Ambulatory Care Pharmacy](#)
- [Specialty Council on Cardiology Pharmacy](#)
- [Specialty Council on Compounded Sterile Preparations Pharmacy](#)
- [Specialty Council on Critical Care Pharmacy](#)
- [Specialty Council on Geriatric Pharmacy](#)
- [Specialty Council on Infectious Diseases Pharmacy](#)
- [Specialty Council on Nuclear Pharmacy](#)
- [Specialty Council on Nutrition Support Pharmacy](#)
- [Specialty Council on Oncology Pharmacy](#)
- [Specialty Council on Pediatric Pharmacy](#)
- [Specialty Council on Pharmacotherapy](#)
- [Specialty Council on Psychiatric Pharmacy](#)
- [Specialty Council on Solid Organ Transplantation Pharmacy](#)

- ・ アメリカの専門薬剤師は13領域
- ・ 専門薬剤師の資格認定はBPS
- ・ プロバイダーの評価・承認は別組織ACPEが行っている

薬剤師認定制度認証機構(CPC)の認証

薬剤師に対する各種研修・認定制度を実施する法人、団体は「認定制度評価基準」に則り、この法人の認証を受けることができる

①生涯研修認定制度 (G)：認証数25

②特定領域認定制度 (P)：認証数6

- ・ NPO法人医薬品ライフタイムマネジメントセンター
- ・ 日本プライマリ・ケア連合学会
- ・ 日本在宅薬学会
- ・ 日本病院薬剤師会 (→日病薬病院薬学認定薬剤師)
- ・ 神戸薬科大学
- ・ 日本くすりと糖尿病学会

③専門薬剤師認定制度 (S)：認証数0

④その他の制度 (E):認証数1

(CPCホームページから)

専門薬剤師認定制度として十分活用されていない
専門薬剤師の認定そのものはどうするか？

薬剤師の専門性に関する論点

厚労科研班会議の提案

- 1) 名称の統一と定義
- 2) 専門薬剤師の要件

今後の検討事項

- 3) 第三者機関認証の仕組みをどうするか？
- 4) 薬剤師に必要な専門領域として過不足はないか？
(5疾病5事業・在宅、医療機関と薬局の違いをどう考慮するか)

国民から見て分かりやすく、信頼される制度にするために、
プロフェッショナル・オートノミーの理念のもと、
新しい質保証の仕組みを構築する必要がある